

第3回 大豆の種（タネ）まいたよ！ 大豆播種体験

月 日：令和5年6月27日（火）

場 所：三重大学附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター 附属施設農場
（三重県津市）

参加者：三重県津市立 大里小学校 3年生 33名

種まきの作業を始める前に、三重大学の先生から大豆について話を聞きました。

種まきの手順などの説明のほかに「大豆からできるものには何があるでしょうか。」といったクイズを出してくれました。

大豆は、豆腐や納豆など日頃食べている
たくさんのものに加工されているんだよ。



大豆の栽培（さいばい）について、土の中の水分が多すぎると生育が悪くなるため畝（うね）を作っていることや、生育にあわせて土を根元に盛っていく土寄せをすると、大豆が大きく生長することなどを学びました。

前日の雨で、畑がぬかるんでいるけど
うまく種がまけるかな。



長い畝を作った畑

（子どもたちの声）
「泥にはまりながら、種をまいたのが楽しかった。」
「大豆から何ができるのかについて知ることができてよかった。」

種まきは、土に深さ2センチメートルほどの穴をあけて2粒ずつまくこと。種が多すぎると栄養を奪い合って生長が悪くなると説明がありました。



1ヶ所に2粒ずつ種をまいています

～先生の感想～ 前日の雨の影響で畑がぬかるんでいて、種まきには予定以上の時間がかかり、子どもたちからの質問の時間がなくなったのが残念でした。
今回の種まき作業は長靴かサンダル、はだしでもよかったのかも。
理科で学習した種のまき方が実際になされていることを、子どもたちが知る機会となりよかった。 （3年生担任）

